

1

かこの れきしと けいず

サウルおうと かれの し



だいいちれきだい

I 歴代10:1~4 このように、サウルは主に逆らったみずからの不信の罪のために死んだ。主のことばを守らず、そのうえ、霊媒によって荷いを立て、主に尋ねなかった。それで、主は彼を殺し、王位をエッサイの子ダビデに回された。(13~14)

1. アダムから始まった契約はアブラハムまで続きました(I 歴代1:1~42)
 - 1) 「女の子孫」という契約をくださいました(創3:15)
 - 2) 「箱舟」という契約をくださいました(創6:14)
 - 3) 「すべての民族は、あなたによって祝福される」という契約をくださいました(創12:1~3)
2. 部族に対する話があります(I 歴代2:1~9:34)
 - 1) 12部族を紹介しています(I 歴代2~8章)
 - 2) 幕屋を大事に思いました(I 歴代9:14~33)
 - 3) レビ部族は幕屋に仕えることを担当しました(I 歴代9:34)
3. サウル王と彼の死がありました
 - 1) ベニヤミン部族のサウルが王になりました(I 歴代9:38~44)
 - 2) 神様が与えられた使命を逃したサウルは殺されました(I 歴代10:1~14)

てきよう 1

かみさま わたし けいやく
神様が 私 たちにくださった契約3つはなんですか。
つぎ せいしょのみことばを見て、さがして書いてみましょう。
(創世記3:15、創世記6:14、創世記12:1~3)

てきよう 2

() の中に正しいことばを入れて、みことばを完成しましょう

このように、サウルは () に

逆らったみずからの不信の罪のために

死んだ。主のことばを守らず、そのうえ、

霊媒によって伺いを立て、主に尋ね

なかった。それで、主は彼を殺し、

王位を () の子

() に回された。

だいいちれきだい
I 歴代10:13~14

2

かこの れきしと おうたち

あぶら そそがれた ダビデ



だいいちれきだい
I 歴代11:1~12:40 全イスラエルは、ヘブロン^{へぶろん}のダビデのもとに集まって来て言った。「ご覽のとおり、私^{わたし}たちはあなたの骨肉^{こつにく}です。これまで、サウルが王^{おう}であった時^{とき}でさえ、イスラエルを動か^{はな}していたのは、あなたでした。しかもあなたの神、主^{きみ}は、あなたに言^いわれました。『あなたがわたしの民^{たみ}イスラエルを救^{すく}え、あなたがわたしの民^{たみ}イスラエルの君^{きみ}主^{しゅ}となる。』(11:1~2) ダビデがキシユの子^こサウルのゆえに、まだツィケラグに引きこもっていたとき、ツィケラグの彼^{かれ}のもとに来た人々^{ひとびと}は次のとおりである。彼ら^{かれら}は勇士^{ゆうし}たちの中^{なか}で、戦^{たたか}いの加勢^{かせい}をした人々^{ひとびと}であり、弓^{ゆみ}を持った者^{もの}、石^{いし}投げ、弓^{ゆみ}矢^やに、右手^{みぎて}も左手^{ひだりて}も使う者^{もの}で、サウルの同族^{どうぞく}、ベニヤミンの出^{いで}であった。(12:1~2)

1. ダビデは王^{おう}になりました

- 1) 主^{きみ}はダビデがイスラエルを救^{すく}え、君^{きみ}主^{しゅ}*となると言^いわれました (I 歴代11:2)
- 2) ダビデはサムエルが伝^{つた}えたみことばとおりに王^{おう}になりました (I 歴代11:3)
- 3) ダビデはシオン^{しよん}の要害^{ようがい}を攻^せめ取^とって住^すまいとし、ダビデの町^{まち}と呼ば^よばれました (I 歴代11:7)

2. ダビデを助^{たす}けた人^{ひと}たちがいました

- 1) 多^{おほ}くの勇^{ゆう}士^しがダビデを助^{たす}けました (I 歴代11:10~47)
- 2) ツィケラグにダビデが引^ひきこもっていたときはベニヤミン部^ぶ族^{ぞく}の勇^{ゆう}士^しが彼^{かれ}を助^{たす}けました (I 歴代12:1~7)
- 3) ガド部^ぶ族^{ぞく}では大^{おほ}盾^{たて}と槍^{やり}を使^{つか}う勇^{ゆう}士^しがダビデを助^{たす}けました (I 歴代12:8~15)
- 4) 要害^{ようがい}の町^{まち}を持^もっているベニヤミン部^ぶ族^{ぞく}とユダ部^ぶ族^{ぞく}の人^{ひと}々^{びと}がダビデを助^{たす}けました (I 歴代12:16~18)
- 5) ペリシテ^{へりし}の攻^{こう}撃^{げき}から逃^にげてツィケラグに行くときは、マナセ^{まな}の部^ぶ族^{ぞく}の人^{ひと}々^{びと}がダビデを助^{たす}けました (I 歴代12:19~22)
- 6) ヘブロンでも戦^{せん}争^{そう}に勇^{ゆう}敢^{かん}な指^し揮^き官^{かん}たちもダビデを助^{たす}けました (I 歴代12:23~40)

*君^{きみ}主^{しゅ}：国^{くに}の最^{さい}高^{こう}の力^{ちから}を持^もった人^{ひと}

てきよう 1

だいいちれきだいし しょう せつ
I 歴代11章2節のみことばを見て、主がダビデに言われたみことばを完成
しましょう

「あなたがわたしの民^{たみ}

() を牧^{ぼく}し、

あなたがわたしの民^{たみ}

イスラエルの

() となる。」

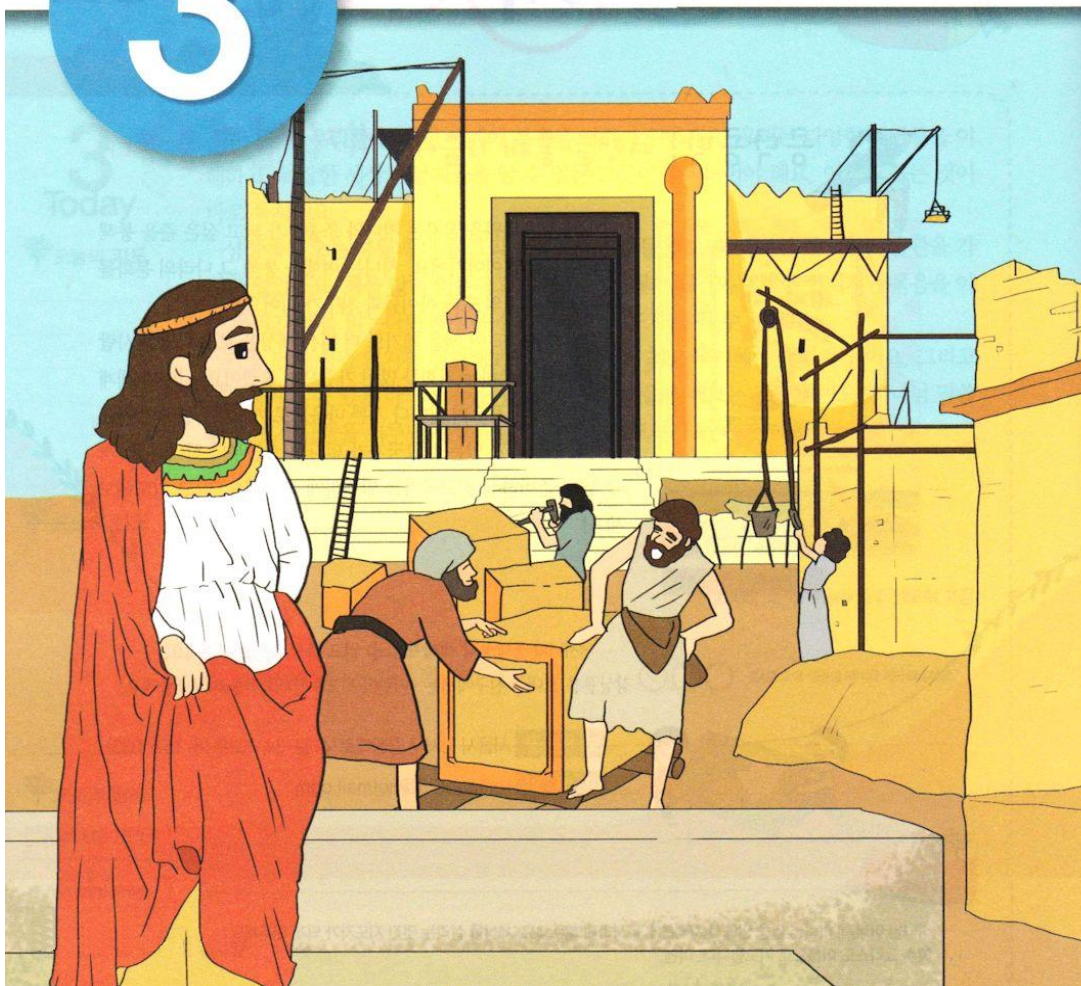
てきよう 2

ダビデはサウル王のゆえに苦しめられましたが、まわりの多くの人に助け
もらいました。もし、まわりに苦しい状況^{じょうきょう}にいる人^{ひと}がいるなら、私^{わたし}はどの
ようにすればよいのか、反対に私が苦しい状況^{じょうきょう}にいるなら、どのようにす
るのか、自由に話してみましよう。

3

かこの れきしと けいず

ダビデおうの とうち



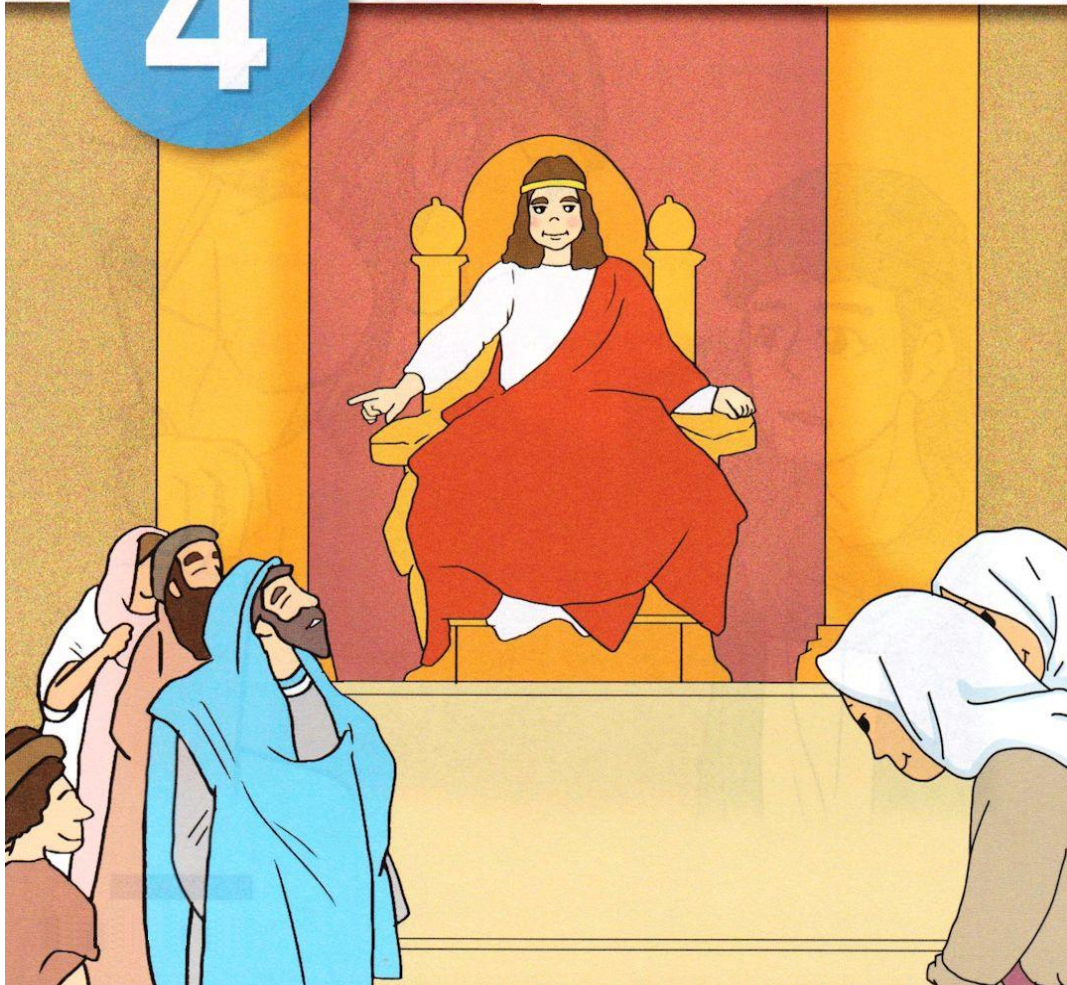
I 歴代13:1~29:21 ここに、ダビデは千人隊長、百人隊長たち、すべての隊長と合議し、イスラエルの全集団に向かって、言った。「もしも、このことが、あなたがたによく、私たちの神、主の御旨から出たことなら、イスラエル全土に残っている私たちの同胞にいっせいに使者を送ろう。彼らのうちには、放牧地のある町々の祭司やレビ人もいる。彼らを私たちのもとに集めよう。(13:1~2) そして、ダビデは全集団に向かって、「あなたがたの神、主をほめたたえなさい」と言った。すると全集団は、父祖の神、主をほめたたえ、ひざまずいて、主と主とを礼拝した。その日の翌日、彼らは主にいけにえをささげ、全焼のいけにえをささげた。雄牛千頭、雄羊千頭、子羊千頭、これらに添える注ぎのぶどう酒、それに全イスラエルのためのおびたしいけにえをささげた。(29:20~21)

1. **ダビデは契約の箱に対する情念*を持っていました**
 - 1) 契約の箱がイスラエルに戻ってきました (I 歴代13:1~14)
 - 2) エルサレムに契約の箱が安置*されました (I 歴代15:1~24)
 - 3) 神様の神殿を建てられなかったダビデの悩みを預言者ナタンに告白しました (I 歴代17:1~1)
 - 4) 神様が与えられた祝福に対してダビデは感謝の祈りをささげます (I 歴代17:16~27)
2. **ダビデはいつも戦争で勝利をおさめた英雄でした**
 - 1) モアブ、ツォバ、ダマスコ、エドムに勝ちました (I 歴代18:1~13)
 - 2) アモンに勝ちました (I 歴代19:1~19)
 - 3) ラバを破壊しました (I 歴代20:1~3)
 - 4) ペリシテに勝ちました (I 歴代20:4~8)
3. **ついに、ダビデは神様のみこころである神殿建築を準備しました**
 - 1) 神殿建築のためのすべての準備を終えたダビデは、ソロモンに神殿建築を委ねます (I 歴代22:1~19)
 - 2) ダビデは神殿建築を控えて、全イスラエルの民の前で感謝の祈りをささげます (I 歴代29:10~14)

*情念：心に強く持っている思い *安置：定まった場所に安全に置かれること

4

かこの れきしと おうたち ダビデの しと ソロモンおう



こどもが しるべき れきだいし だいいち

だいいちれきだい
I 歴代29:22~30 ダビデ王の業績は、最初から最後まで、予見者サムエルの言行録、預言者ナタンの言行録、先見者ガドの言行録にまさしく記されている。それには、彼のすべての統治、彼の力、また、彼およびイスラエル、それに各地の諸王国が過ごした時代について記されている。(29~30)

1. ダビデは神殿建築のすべての材料を準備しました (I 歴代29:1~9)
2. ダビデは神殿建築を控えて、すべての民の前で感謝の祈りをささげました (I 歴代29:10~14)
3. ついにソロモンがダビデの代わりに王座に着きました (I 歴代29:22~28)